

第2回 瑞穂市地域福祉計画策定委員会 会議要旨会議録

会議名	第2回 瑞穂市地域福祉計画策定委員会
開催日時	令和2年8月7日（金）13時30分～
会場	瑞穂市総合センター2階 交流ルーム
出席者	委員：13名（欠席者：国枝委員、児玉委員 2名） 事務局：健康福祉部長、地域福祉高齢課長、課長補佐、社会福祉協議会職員、委託業者（株式会社ぎょうせい東海支社）
次第	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 あいさつ 3 新任委員紹介 4 議事 <ul style="list-style-type: none"> （1）計画策定にあたって （2）基礎調査結果からみる現状と課題について 5 その他
配布資料	第2回瑞穂市地域福祉計画策定委員会次第 瑞穂市地域福祉計画委員会名簿 資料1 計画策定にあたって 資料2 地域福祉に関する市の状況 資料3 瑞穂市地域福祉（活動）計画・高齢者生き生きプラン策定に係る団体ヒアリング調査結果報告書 瑞穂市地域福祉計画策定のためのアンケート調査結果報告書
議事概要	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 事務局の進行で開会 2 あいさつ 森市長よりあいさつ 3 新任委員紹介 新任の馬淵委員に市長より委嘱状の交付。その後、事務局（市・社協）職員の紹介。社会福祉協議会の地域福祉活動計画との一体的策定について説明 4 議事 豊田会長の進行のもと、事務局より資料の説明。その後質疑応答 5 その他 事務局から次回会議日程（10月）を報告

■議事要旨

(1) 計画策定にあたって

豊田（隆）委員：事前に送付いただいた資料と本日の資料は内容の変更があるのか。

事務局：2 ページの計画の位置づけでの模式図が変更となっている。

竹本委員：ひきこもりなどの実態について具体的なデータを把握しているのか。

事務局：関連課と連携して計画を策定していく中、ひきこもり等の現状も把握していく。

竹本委員：地域のつながりが弱くなっている中、地域で支え合ってくださいといっても困難ではないか。ボランティアをするにしても足場が弱くなっている中で活動していくのは難しいと思う。ボランティア活動のサポートとして、行政から地域のつながりを強めていく施策、方針も計画に含まれているのか。

事務局：市では、地域のつながりを強める一環として、1つの自治会だけでは解決できない課題に対応するため、小学校区単位の連合自治会の結成を支援している。

(2) 基礎調査結果からみえる現状と課題について

麓委員：資料2の児童人口とひとり親世帯の時点が違うのでは。平成27年以降のひとり親世帯は増えているのか。計画にひとり親世帯への支援を入れる場合に必要なのは。

事務局：児童人口は住民基本台帳、ひとり親世帯は国勢調査から数字を把握している。ひとり親世帯の状況について直近のデータで把握できるものがあるのか確認する。

麓委員：現実に即した対応が必要なため、データ把握をお願いしたい。

竹本委員：子どもの貧困が話題になる中、生活保護対策が子どもの貧困対策のすべてではないが、資料では母子家庭で生活保護を受けている世帯が6と少ない。今後も子どもが大きく減らない見込であれば、子どもへの施策に重点を置く必要がある。瑞穂市の子どもたちに貧困の状態があるのかどうか、詳しいデータを把握してもらいたい。

玉城委員：アンケート調査結果の「問10 地域での支え合いの必要性」で、支え合う必要があるという回答が86%と非常に高いが、関連する設問で「問12 地域福祉活動についての市民と行政のあり方」をみると、市民としては支え合う必要はあるが、市への要望が強く、行政への依存が強いように思える。行政が考える協働と、市民が考える協働に意識の差があるのでは。その差を考慮して施策を検討し、どのように協働を進めていくかがポイントとなると思う。

渡邊委員：国勢調査は5年に1回であり、今年の10月に調査をするが、その結果は半

年あとになる。そのデータはどのようにマッチングさせていくのか。最新のデータに基づき計画策定をどうしていくのか。

水谷委員：瑞穂市で生まれた方も、結婚して転入された方も、どの窓口で相談してよいかという話を聞くことがある。困りごとなど家族や友人に相談するが、その際に家族や友人が相談窓口を知っていれば、相談先につなげることができる状況にある。また、市内で様々なボランティア活動や市の事業があるが、実態がよくわかっていない人も多い。広報紙等にそうした情報は掲載されているが、すべての方が読んでいない。そうした情報を相談したい人に伝える方策をこの計画で位置づけられればよいと思う。

東海委員：アンケート調査結果をみると、市民のボランティアへの興味や参加意向がある方が多い。今後もボランティアへの関心を高め、周知し、理解を求め、育成して継続していくことが重要だと思う。計画の実施ではボランティアについて重視してほしい。

豊田（隆）委員：私自身も生活支援ボランティアをしているが参加者が増えてほしい。社協とも協力して進められればと思う。また、市内では民生委員1人あたりの担当世帯が15世帯から80世帯と大きなばらつきがあるので、見守りなどを考えると、是正する必要があるのでは。福祉協力員を自治会で推薦しているが、実際どのような活動をしているのか。活動について周知していただければ、地域での見守りの強化にもつながると思う。

山本委員：老人クラブの活動について、地区クラブの脱退などがあり、参加者が減少している。老人クラブは自治会単位であり、活動としては親睦活動や見守り・声かけボランティアとして、河川美化、お宮の清掃など体力を必要とする活動も行っている。しかし、人数も減少し、体力が低下することで活動が思うようにならないこともある。さらに、入会資格があっても老人クラブに加入してこないため、自治会に加入をお願いしている。今は新型コロナの影響で活動が制限される現状がある。

馬淵委員：近年、互助の重要性が言われていますが、アンケート調査結果をみると、市民の行動に出ていないにしても8割の方が重要だと思っている。思っていることは行動につながることの1つだと思う。助け合いについても、あいさつや安否確認ならできるという人が多い。このことは互助の根底を支えるものだと思う。そうした意識が大切なことであると市民に認識してほしい。身近な助け合いなどで、していること、できることから活動を広げていることが地域のつながりになっていく。居住年数の少ない方が比較的助け合いの意識が低い傾向がある。そうした層への働きかけが重要だと思う。ボランティア活動については、多くの方が重要だとは思っていても活動に結び付かない現状がある。ボランティア団体は新規加入が大きな課題だと思う。

石谷委員：アンケート調査結果の回収率40%がよいかどうか、根本的にはよいと思う。

市民の多くは頭ではよいと思っけていても、実際に行動に反映されない。市民が行動するためにはどうするか検討が必要である。

林委員：アンケートの回収率について、市民から 2,000 人を抽出して 700 弱の回答があったが、満足のいく回答なのか。障がい者計画の策定では障がい者全員をアンケートの対象にしており回収率が高く、違いがあるように感じる。

畦地委員：調査設計に関連して、こうした計画の郵送でのアンケートとしては 38%と 40%近い回収率は高く、ある程度の信頼性がある。しかし、意識のある方しか回答していない点、アンケート回答者の年齢構成と実際の年齢構成が異なる点が弱点としてある。事務局からの説明では 8 割を超える方が地域での助け合いが必要と認識していると説明がありましたが、そうした意識を持っている人だけが回答した結果である。アンケート結果は福祉への意識が高い人の意見だと思っけていただきたい。また、アンケート回収率が高いと話しましたが、60%の方の意向はわからない。そうした調査の限界、調査全体の偏りを認識してみていく必要がある。また、コミュニティについて、居住年数の短い方は「近所とのつきあい」が少ないなど、地域とのつながりが薄い傾向がみられる。また、問 35 の災害時避難場所の認知度で、居住年数の短い方は 47%が「知らない」と回答している。こうした点から、新しく転入してきた方への広報、情報伝達がうまくいっていないことが大きな課題であると思っける。市には毎年 3,000 人弱の方が転入してきているが、例えばこの委員会の委員の方のように、地域のコミュニティの中心となっている方と新しく転入されてきた方の意識の差を考えて計画策定を進めていく必要がある。マッチングが取れていないと市民に響かないと思っける。広報、周知の問題と、若年層、新しく入ってきた方に、福祉の問題、地域での対応など、どう伝えていくかが重要ではないかと思っける。そうした点を踏まえながら、ボランティアや高齢者、障がい者、子どもへの支援など個別の案件に対応すべきだと思っける。

以上